

文化功労賞

吉松 良治



大正15年生まれ。吉原在住。

昭和21年から教諭として有田地方の小中学校で教鞭をとり、昭和56年金屋中学校校長を退職。文化庁諸職調査委員、総務省行政相談委員、町選挙管理委員、社会教育委員、青少年健全育成協議会委員など行政委員を歴任され、平成16年瑞宝双光章受章。農業交換留学を模索しその後に文化交流を深められたことで、オーストラリア・オレンジ市名誉市民となる。

在職中から地域の歴史・文化財に造詣が深く、郷土史、文化に精通した中西正雄氏、小槇孝二郎氏、松本保千代氏の指導を受け、その知識を深めた。昭和32年人工衛星金屋観測班の観測員として小槇孝二郎氏指導の下、ソ連の人工衛星スプートニクの軌道を光学カメラでの撮影に成功する。町文化財保護審議委員として、明恵上人筏立遺跡の発掘と調査に関する委員を務め、石造物現地調査記録や農産業用具機器民具の蒐集保存、和歌山県立文書館の委嘱を受け民間所蔵古文書の調査・保存保全に取り組んだ。明恵上人を紹介するビデオ初版『明恵上人の足跡を尋ねて』の製作監修を行い、絵本『明恵上人』の編集委員、明恵上人生誕地の歌碑建立委員を務めた。明恵上人750年御遠忌記念として尾掛松の記念植樹を行い、守ヶ滝・硯岩など明恵上人伝説地の保存・整備も行った。また有田地方文化財研究会、元明恵上人讃仰会の理事も務め、明恵上人ゆかりの寺や行跡地（施無畏寺（湯浅町）、歓喜寺、浄教寺、法蔵寺、成道寺（有田川町）、星尾寺（有田市））に上人ゆかりの標柱や筏立遺跡の歌碑建立の大役を務めた。

現在も学校での郷土学習への協力や、明恵上人遺跡への見学訪問者への説明や案内を行っており来訪者から喜ばれている。

これらの文化活動は本町における文化振興に大きく尽力されており、その功績は誠に多大であります。

文化奨励賞

藤並城跡保存会



地元で「土居の堀」と親しまれてきた藤並城跡は、保存会メンバーの幼少期の遊び場であった。貴重な史跡を将来へ保存していこうと、平成18年に地元有志で結成された。令和3年5月、有田川町教育委員会感謝状。

定期的に清掃活動を行い、勉強会を重ねながら城跡の重要性を共有することで、メンバーを増やしながら活動を継続している。

平成21年藤並城跡保存会として町へ文化財保護申請を行い、同年町文化財として指定を受ける。地域に親しまれる場所とするために、ベンチ整備や桜の植樹など環境整備を行っている。

平成23年9月和歌山県城郭研究会会長の白石博則氏を講師として招聘し研修会、藤並城跡の見学会を開催し多くの聴衆を集める。その内容と保存会が収集した藤並館跡に関連する文献や地域の古老から昔の状況を聞き取ったことなどを藤並城跡誌として発行し、国会図書館、和歌山県立図書館、和歌山市立博物館へ納本している。

平成29年藤並城跡に町の発掘調査を実施したところ、保存状態が良好で、土塁の構築時期が13世紀後半に遡ることが明らかになり、また、鎌倉時代の方形居館を戦国期まで改修を繰り返しながら利用されていたことも確認された。それを受け、令和3年3月湯浅城跡と藤並城跡が「湯浅党城館跡」として国史跡に指定された。湯浅党城館跡は、平安時代末期から南北朝期の紀伊国において勢威と振るった湯浅一族を中核とする武士団「湯浅党」が地域支配の拠点とした城館で、全国的にも非常に豊富な文献資料が残されていることから、中世武士団の実態を示す典型事例としてよく知られています。

藤並城跡の国史跡指定に大きく尽力したことで当町における文化振興に大きく貢献しており、その功績は誠に多大であります。